◪ 受賞者業績

「第４０回青森県農業経営研究協会賞」受賞者

- 氏　　名　　沼畑俊一（ぬまはたしゅんいち）
- 年　　齢　　昭和 23 年生まれ・73 歳
- 住　　所　　三戸郡南部町大字相内
- 経営内容

農業労働力	家族４人（本人、妻、長男夫婦） 常時雇用２人、パート３人、外国人技能実習生１人
経営耕地面積 （令和２年）	水　田　　80ａ（うち借地　48ａ） 転作田　　47ａ（うち借地　35ａ） 普通畑　　34ａ 樹園地（成園）　145ａ
主な作付品目等 （令和２年）	水稲　　72ａ ミニトマト　　24ａ ねぎ　　36ａ 西洋なし　　80ａ 日本なし　　54ａ おうとう　　20ａ ぶどう　　6ａ ブロイラー　　165,000 羽（年間出荷羽数）

【業　　績】

新品目や新品種への挑戦と技術確立で
「野菜・果樹・ブロイラー」３部門を柱とする
高収益で安定的な複合経営の実現

1　経営の発展経過と概要

（１）就農の経緯

昭和 42 年３月　高校卒業後、実家の経営に参画

（２）発展の経過

就農時の主な品目は、りんごと食用菊であったが、価格の低迷や病気の蔓延などにより収入は不安定であった。そのため、昭和 43 年に農協が募集していたブロイラーの生産に取り組んだが、当初は規模が小さいこともあり経営は赤字が続いた。

その後、出荷先を替えるなど経営改善に努め、10 年以上を経てようやく軌道に乗るようになった。

また、より安定した経営とするため、果樹では、りんごからなし、おうとう、ぶどう等の高収益が見込める品目への転換を図り、野菜では、補助事業を活用しながら施設を整備するとともに、食用菊からミニトマト等に切り替えてきた。

さらに、長男の就農後には、新たな品目としてねぎを導入するなど、意欲的に経営改善に取り組んでいる。

〈表１〉主な取り組み経過

時　期	主な出来事	主な品目等
昭和 42 年	高校卒業後、就農	主な品目：りんご、食用菊
43 年		養鶏（ブロイラー）を導入
45 年		なし、ぶどうを導入 ※りんご、食用菊から切り替え
54 年		「ゼネラル・レクラーク」を導入
60 年		おうとう、ミニトマトを導入
平成 13 年	家族経営協定を締結	
14 年	長男夫婦就農	
15 年	家族経営協定の見直し	みずなを導入
16 年	堆肥舎設置	
19 年		「ジュノハート」を試験栽培 「シャインマスカット」を導入
20 年		ねぎを導入
24 年		「南部太ねぎ」を導入
28 年	海外への試験的輸出を開始	

（３）経営の概要

経営形態は、野菜と果樹にブロイラーを組み合わせた３部門を柱とする複合経営で、令和２年の経営規模は、水稲 72ａ、ミニトマト 24ａ、ねぎ 36ａ、西洋なし 80ａ、日本なし 54ａ、おうとう 20ａ、ぶどう６ａ、年間出荷羽数 165,000 羽となっている。

粗収益は、農産物とブロイラーの総額が 1 億 1,582 万円であり、粗収益から経費等を差し引いた所得は、1,298 万円となっている。

また、労働力は、経営主夫婦と長男夫婦の４人を基本に随時雇用や研究生を組み入れている。

〈表２〉家族と労働力

（令和４年３月現在・単位：歳、日）

氏　　名	続柄	年齢	年間農業従事日数	年間兼業従事日数	役割分担
沼　畑　俊　一	本人	73	250	0	経営全般
	妻		250	0	
	長男		250	0	野菜、ブロイラー部門
	長男の妻		250	0	

注）常用雇用２人、パート３人、外国人技能実習生１人

〈表３〉経営耕地面積

（令和２年・単位：ａ）

地　　目	面　　積			備　考
	所 有 地	借 入 地	計	
水　　田	32	48	80	
転 作 田	12	35	47	
普 通 畑	34		34	
樹園地（成園）	145		145	
計	223	83	306	

〈表４〉主な農作物の生産・販売状況

（令和２年度・単位：ａ、kg、円）

作物名	作付面積	数　量		仕向け内容			
		10ａ当たり収量	総量	販　売			家計
				数量	単価	販売額	金額
水稲	72	600	4,320				[redacted]
ミニトマト	24	7,200	17,280	17,280	[redacted]	[redacted]	
ねぎ	36	3,500	12,600	12,600	[redacted]	[redacted]	
西洋なし	80	1,600	12,800	12,800	[redacted]	[redacted]	
日本なし	54	2,000	10,800	10,800	[redacted]	[redacted]	
おうとう	20	550	1,100	1,100	[redacted]	[redacted]	
ぶどう	6	1,000	600	600	[redacted]	[redacted]	

注）単価の１円未満は四捨五入

〈表５〉家畜の飼養状況

（令和２年度・単位：羽、円）

畜種	品　種	年間出荷羽数	仕向け内容		
			販　売		
			数量	単価	販売額
鶏	ブロイラー	165,000	165,000	[redacted]	[redacted]

〈表 6〉経営の推移

（単位：円）

区　　分		平成 30 年	令和元年	令和２年
粗収益	水稲	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	ミニトマト	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	ねぎ	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	西洋なし	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	日本なし	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	おうとう	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	ぶどう	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	ブロイラー	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	その他	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	計	[redacted]	[redacted]	[redacted]
所　　得		[redacted]	[redacted]	[redacted]

注）経営の推移において所得が下がっている理由

①ブロイラーは年 5 回のペースで出荷しているが、年によって 6 回になることがある（3 年に 1 回程度）。平成 30 年は年 6 回の年に該当しているため、所得が高くなっている。

②令和 2 年は、収入が前年より増加しているが、償却資産の増加に伴い経費も増加したため、所得においては減少している。

２　経営の特徴

（１）気象災害等に強い安定した農業経営の確立

経営の安定を図るため、気象災害等により一つの部門の収入が減少しても、残りの部門でカバーできるような複合経営を目指している。このため、毎年確実に一定の収入を確保でき、なおかつ作業が競合しないよう部門ごとに経営規模の適正化を図り、栽培する品目や品種の構成、雇用を含めた労働力の配分等を決定している。

（２）高品質安定生産の取組

① 野菜

ミニトマトのハウス栽培は、自動点滴かん水養液土耕システムを導入し、きめ細やかな養水分コントロールによる良品生産に取り組んでいる。また、ミニトマトの後作として冬期間にみずなや小松菜、ほうれんそうなどの葉菜類を作付けし、ハウスの有効活用と所得の向上に努めている。

ねぎは、露地栽培に加えて、南部町の伝統野菜である「南部太ねぎ」のハウス栽培も行っている。「南部太ねぎ」は土寄せによる病気や葉折れが発生しやすいことから、安定生産のため高さ 30cm に立てた畝に深さ約 40cm の穴を開けて苗を定植する「縦穴法」を採用している。

② 果樹

なしは、平棚栽培と全国でも珍しいＹ字棚を導入している。Ｙ字棚での栽培は、平棚より設置経費が掛かるが、整枝・剪定が容易で、玉伸びも良くなることから、作業の省力化と高品質安定生産に役立っている。また、交信撹乱剤を使用することで薬剤散布回数を減らし、環境に配慮した防除体系にも取り組んでいる。

おうとうは、地域でいち早く散水設備を導入した雨よけハウスで栽培し、凍霜害時には、その効果を大きく発揮している。また、散水により生育期の土壌水分を適切に保てることから高品質化が図られている。さらに、結実確保と風害防止のため、春から防風網を張っているほか、省力化に向けて垣根仕立てを導入するなど、地域生産者の参考となる取組を実践している。

ぶどうは、無加温ハウスで栽培しているが、春先の霜害や生育期の低温に備え加温機を導入するとともに、細かなかん水管理を実践することで、大粒で甘みの強い良品生産が図られている。

③ ブロイラー

ブロイラー部門は、「株式会社あべはんグループ（本社：岩手県）」と契約することで飼料設計のほか、飲み水や空調管理などのサポートを受けている。特に、ブロイラーは暑さや寒さに敏感なことから、生育ステージに合わせ 24 時間体制で温度管理を徹底し、健康な生産を実現している。

（３）優良品種の積極的な導入

① 野菜

ミニトマトは独自性を出すため、ハート型で甘みが強く肉厚な食感が特徴の「トマトベリー」を主体としている。「トマトベリー」は、生産に応じた肥培管理など高い栽培技術を要するものの、品質の良いものを出荷し、消費者から人気を博している。

また、南部町の伝統野菜である「南部太ねぎ」の栽培にも仲間６人で取り組んでいる。「南部太ねぎ」は、栽培の難しさから一時消えかけたが、地元の名久井農業高等学校の協力により復活を遂げており、地域の特産物として生産が拡大しつつある。

② 果樹

なしは、西洋なしの「ゼネラル・レクラーク」、日本なしの「かおり梨」や「あきづき」を中心に栽培している。特に、「ゼネラル・レクラーク」は、地域に導入された当初から品種の普及と栽培技術の確立、高級果物店への販路確保に中心的な役割を果たすなど、ブランド化や産地形成に貢献した。

おうとうは、「佐藤錦」を中心に、「紅秀峰」や県の新品種「ジュノハート」などを栽培している。「ジュノハート」については、平成 19 年の試験栽培の段階から携わり経験も豊富なことから、現地実証ほ設置の協力や各種検討会での助言を行うなど生産者の相談役として普及拡大に貢献している。さらに、県のＰＲや販売促進活動に協力するとともに、上位等級品の「青森ハートビート」を積極的に出荷するなど、ブランド化の推進に尽力している。

ぶどうは、「シャインマスカット」を栽培しており、優れた栽培管理と品質から立木品評会で農林水産大臣賞を受賞するなど、ぶどう栽培の模範園となっている。

（４）ブロイラー部門からの堆肥を活用した減化学肥料栽培

平成 16 年に建設した堆肥舎で鶏糞堆肥を製造し、野菜や果樹の栽培に利用することで化学肥料の使用を控えるようにしている。

（５）多様な流通と販売

① 野菜・果樹

取引先の割合は、市場（４割）、宅配・直売所（３割）、農協（３割）と組み合わせることで、安定した販売力を維持している。

また、平成 28 年から青森県総合流通プラットフォーム（A!Premium）とＪＡ全農の販路を活用して、西洋なし、ぶどうを香港等へテスト的に輸出している。さらに、商談会や販売イベント、ショッピングサイトへ積極的に出品し、販路拡大を図っている。

② ブロイラー

ブロイラーは、岩手県の食肉事業者である「株式会社あべはんグループ」へ全量出荷し、水と飼料、飼育方法にこだわった「あべどり」ブランドとして、全国に流通・販売している。

（６）パソコンによる経営管理

税理士のサポートのもと、パソコンを活用し野菜・果樹等の作物部門とブロイラー部門に分けて簿記記帳を行い、経営状況の把握に努めるとともに、次年度の営農計画に反映させるなど経営改善に役立てている。

（７）家族経営協定による役割分担と後継者就農

平成 13 年、夫婦で家族経営協定を締結。その後、平成 15 年には長男夫婦の就農を機に協定内容を見直し、部門分担を取り入れることで後継者の役割を明確にしている。

〈表７〉農機具の所有状況

（単位：台、円）

No.	種　　類	規格・能力	台数	取得年	取得価額
1	トラクター	22PS・25PS	2	平成4･9年	2,825,000
2	田植機	4条植	1	平成27年	410,400
3	ブロードキャスター		1	平成9年	190,476
4	乗用管理機		1	平成11年	242,000
5	乗用モア		1	平成12年	617,143
6	動力噴霧器		2	平成4年 令和元年	810,760
7	スピードスプレーヤー	600㍑	2	平成8･23年	6,087,821
8	選果機		1	昭和63年	500,000
9	軽バン		2	平成14･26年	2,480,477
10	軽トラック		1	平成19年	867,980
11	軽トラック（ダンプ）		1	令和2年	1,439,550
12	ダンプトラック	２ｔ	1	平成24年	400,000
13	油圧ショベル		2	昭和61年 平成2年	1,260,000
14	ショベルローダー		1	平成24年	2,874,554
15	フォークリフト	1.５ｔ	1	平成30年	1,479,600
16	パソコン一式		1	令和2年	325,180

〈表８〉施設・建物の所有状況

（単位：円）

No.	種　　類	構造	規模	取得年	取得価額
1	作業小屋	木造		平成2･15年	4,402,611
2	ビニールハウス		660坪	平成2･4･8･16･18･20･21･22･23･27年	10,170,430
3	鶏舎	木造	705坪	昭和54･56年	20,122,000
4	堆肥舎			平成11年	1,043,263
5	果樹棚			平成3･10･16･17･20･27年	4,294,641
6	防風ネット			平成31年	1,232,421

〈表９〉事業の実施状況

（令和２年）

区　分	種　類	品目	作業名	作業量
共同利用	トラクター	水稲	耕起	65ａ

〈表 10〉品目別経営収支

（令和２年・単位：円）

費　　目	経営全体	品　　目　　別			
		水稲	ミニトマト	ねぎ	西洋なし
粗 収 益	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
経 営 費					
租税公課	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
種苗費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	
素畜費	[redacted]				
肥料費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
飼料費	[redacted]				
農具費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
農薬・衛生費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
諸材料費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
修繕費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
動力光熱費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
作業用衣料費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
農業共済掛金	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
雇人費	[redacted]				
委託料	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
土地改良費	[redacted]	[redacted]			
事務通信費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
その他	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
減価償却費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
少額資産償却費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
出荷・販売経費	[redacted]		[redacted]	[redacted]	[redacted]
所　　得	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]

（令和２年・単位：円）

費　　目	品　　目　　別				
	日本なし	おうとう	ぶどう	ブロイラー	その他
粗 収 益	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
経 営 費					
租税公課	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
種苗費		[redacted]			[redacted]
素畜費				[redacted]	
肥料費	[redacted]	[redacted]	[redacted]		[redacted]
飼料費				[redacted]	
農具費	[redacted]	[redacted]	[redacted]		[redacted]
農薬・衛生費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
諸材料費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
修繕費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
動力光熱費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
作業用衣料費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
農業共済掛金	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
雇人費				[redacted]	
委託料	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
土地改良費					
事務通信費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
その他	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
減価償却費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
少額資産償却費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
出荷・販売経費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
所　　得	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]

注 1）ブロイラーの飼料費について
　こだわりブランド鶏として販売するために、特別な飼料を給与している。

注 2）その他の内訳
　もも、プラム、ブルーベリー、りんご、みずな等

３　地域農業への貢献

長期にわたり、ＪＡまべちサクランボ生産部会会長（平成 17～19 年）や青森県なし振興協会会長（平成 10～27 年）、南部町農業委員会会長（平成 16～20 年）を務めており、地域農業の先導役として多方面において活躍してきた。

特に、県南地域におけるなしの振興に果たした役割は大きく、南部町の特産である西洋なし「ゼネラル・レクラーク」の産地化を進める上で中心的役割を担っている。また、平成 24 年に本県で開催された「第 27 回全国西洋ナシ研究協議会青森県大会」では実行委員長を務め、産地のＰＲや発展に寄与した。

さらに、試験研究機関等との連携を密にして、おうとう「ジュノハート」の試作など、地域に適した優良品種の選定や新技術の導入に向けた試験に率先して取り組み、新品種と栽培技術の普及に貢献している。

平成 18 年２月に青森県農業経営士に認定され、名誉農業経営士となった現在でも若手農業者への助言・指導を積極的に行うとともに、県の普及指導員や営農大学校生らの研修についても受け入れ、後継者の育成に努めている。

４　今後の展望と課題

これまで様々な作物の栽培経験をしたが、「人と同じことをしても面白くない。興味を持つ点を見つけ、それを積み重ねていきたい。」と新しいものに挑戦する意欲は今も変わっていない。今後も、採算が合わなければ品目の切り替えを行うことで安定した農業経営を維持したいと考えている。

また、自分の経営だけでなく、地域農業を守るためグリーン・ツーリズムや６次産業化など地域全体を巻き込んだ農業経営活動に積極的に取り組んでいく。

沼畑氏は、野菜と果樹にブロイラーを組み合わせた、気象災害等に強い安定した農業経営を実践しており、農業経営者として高い資質があると認められる。

その計画性と実行力は、他の模範となるところが大きく、また、温厚な人柄で地域農業者からの信望も厚い。今後も更なる経営発展と地域リーダーとしての活躍が期待できる。

５　主な資格・受賞歴

平成 18 年	青森県農業経営士
平成 24 年	第 27 回全国西洋ナシ研究協議会青森県大会 全国果樹研究連合会会長賞
平成 26 年	名誉農業経営士
平成 30 年度	青森県ぶどう立木品評会　農林水産大臣賞

ビニールハウスと鶏舎

堆肥舎

ミニトマト「トマトベリー」

南部町在来種「南部太ねぎ」

なしＹ字棚栽培

おうとう「ジュノハート」

ぶどう「シャインマスカット」

ブロイラー「あべどり」